



高崎高校同窓会報

2016
No.50

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

平成28年11月30日

県下進学校 高校総体初の総合優勝



巨人打線を キリキリ舞いさせた男 ～三輪 八郎～

時は昭和15(1940)年8月3日、所は関東州^①・大連の満鉄倶楽部球場。当時最強を誇った巨人打線は阪神入団2年目、弱冠18歳の少年にノーヒットノーランの屈辱をなめさせられ、切齒扼腕して悔しがった。その少年こそわが高崎中学校(高中)第38期卒業の三輪八郎であった。

三輪は昭和9(1934)年片岡小学校から高中に入学、野球部員として3年時の昭和11年には県大会、北関東大会ともに決勝戦まで一人で投げ抜き、高崎の野球ファンを大いに沸かせた。しかし、この年桐生中学校は春の選抜で準優勝し、その後も圧倒的な強さを発揮しており、県・北関東どちらもその堅城を抜くことはできなかったが、神宮大会での活躍もあり、三輪の逸材ぶりは関係者に高く評

価されていた。そのため昭和14年卒業を迎えると、職業野球(プロ野球は当時こう呼ばれていた)からの誘いが殺到し、猛烈な獲得合戦の末に阪神球団への入団が決まった。

三輪は入団2年目になると、春季リーグ^②から期待どおりの力を発揮し勝ち星を重ねた。この年夏季リーグは当時中国東北部にあった「満州国」^③で行われることになり、全9球団が満州へ移動し各地を転戦した。三輪は第2戦の8月3日対巨人戦に先発し、四球4、失策3の7出塁は許したものの、当時のスタープレーヤーをそろえた強力打線



昭和15年頃の三輪

に一本のヒットも許さない快投、阪神球団初のノーヒットとなった。この頃日中戦争は泥沼化し戦線は拡大し続け、プロ野球選手にも容赦ない徴兵令状が舞い込み、ほとんどの球団が戦力ダウンしている中、巨人軍だけはベストメンバーを組むことができた。因みに、この日のメンバー^④中7人が野球殿堂入りしている。それだけにこの記録には大きな価値があり、高く評価された。15年度は16勝、18年度には11勝し、この年阪神の対巨人6勝中4勝を三輪が稼ぎ巨人キラーぶりを発揮したが、このシーズン終了後応召により球界を去った。そしてこの暮には中国戦線に派遣され、翌19年山東省沂水の地で戦死、不帰の客となった。現在、高崎高校合宿所近くの三輪家墓地に眠っている。

また東京ドーム脇にある「鎮魂の碑」^⑤にその名が刻まれている。(敬称略)

参考文献 高崎高校100年史
「翠巒の群像」折取「白球に賭けた青春」



快挙を報ずる満洲日日新聞

- ① 当時日本領だった遼東半島の行政名称
- ② 春・夏・秋それぞれで勝者を決め、優勝は3季通算の勝率で決定する変則1シーズン制
- ③ 中国東北部に関東軍の主導で設立された日本の傀儡国家。
どこの国からも承認されなかった
- ④ 6白石(「逆シングルの名手」広島監督)
5水原(東京六大学のスタープレイヤー、巨人監督)
4千葉(「猛牛」の愛称で人気、近鉄監督)
3川上(「打撃の神様」、V9巨人監督)
9中島(日本初の三冠王)
7平山(「塀ぎわの魔術師」)*
8呉(波)*
2吉原(伝説の名投手沢村の女房役)
1スタルヒン(ロシア生まれ、北海道育ち。通算303勝)
*は殿堂入りなし
- ⑤ 戦没野球選手の慰霊碑



高中時代のフォーム

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(67期)

串田 紀之

平素より同窓会諸氏のご活躍と母校への多大なるご支援に敬意を表すと共に心より感謝申し上げます。お陰様で本年度、御承認頂いた事業も滞りなく順調に推移しております。在学生の活躍として、バスケットボール全国大会出場を筆頭に平成28年度関東全国大会では数々の賞に輝き目を見張るばかりです。同窓会としても、これらを全力で応援していきたいと思っております。物心両面からのお力添えを頂ければ幸いです。

さて本校も明治30年の創立以来来年で120周年という大きな節目を迎えます。

それに伴いまして平成29年5月20日土曜日高崎音楽センターにて記念式典、同日高崎ビューホテルにて祝賀会の開催が決定致しました。現在、120周年記念行事実行委員会を立ち上げ

事業概要について審議しているところでございます。詳細につきましては後日ご案内をする所存でございますので、宜しくお願い致します。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

また別の事業として皆様の関心事でありますところの指月庭の改修が竣工致しました。母校へお越しの際には是非ご高覧下さい。

今、同窓会と致しましても、この120周年記念行事が大変大きな取り組み課題となっております。皆様・関係各位のお力添えを頂き記憶に残る事業にしたいと考えております。

結びに会員の皆様には引き続き変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

クシダ工業株式会社 代表取締役会長



高崎高等学校校長

佐藤 功

日頃より、母校高崎高校に絶大なるご支援とご指導を賜り感謝申し上げます。お陰様をもちまして、今年度の県高等学校総合体育大会では、初めて総合優勝をすることができました。本校は来年度、創立120周年を迎えますが、これからも、諸先輩達によって築かれた高高的文化を継承しつつ、さらに発展していくよう教職員一同努力して参りたいと思います。

さて、国では、大学教育、高等学校教育、大学入学者選抜を連続した一つの軸としての改革を進めています。大学、高等学校の教育が変わるのだから、入試制度も変わる、ということです。この中で、高等学校教育には「学生が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていく能動的学修の充実」が求められています。

本校では、次世代のリーダー育成を

目指して「翠巒プロジェクト」を本校の教育体系として推進しているところでありますが、平成28年度より、文部科学省の事業であるスーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受けることができました。この事業では、基礎的な知識・技能の基づく思考力・判断力・表現力等の能力を伸ばし、主体的に課題解決に取り組める人材の育成を目指すのですが、本校では、さらに、課題研究や教科融合型の学習等で次期学習指導要領に何か提案できればと思っているところであります。

今後も翠巒プロジェクトの下、高いレベルでの「文武両道」を実践し、国際社会で活躍できる有為な人材を育成して参りたいと考えておりますので、引き続き変わらぬご支援、ご指導をお願い申し上げます。

潮流

バイオノベーションの奔流

平田 正

元協和発酵工業株式会社 代表取締役会長(57期)



巨大なDNA二重らせんモデル DNAラーニングセンター所長と

1998年のアメリカ大統領年頭教書は“21Cは生命科学の時代”ととらえ、大きな時代の潮流を見通した国策としての科学技術・産業政策を打ち出した。その背景には近年の急速な生命科学の進展があり医療、農業、エネルギー、環境など広範な社会変革へのインパクトが期待されることがある。新しいミレニアムが始まるやヒトゲノム(一つの細胞が持つ遺伝子の総称)の解読競争は終盤を迎え2003年にはクリントン大統領とブレア首相が共同でその完成版を高らかに発表した。日本も競争に参加したが解読への寄与は6%に過ぎずゲノム戦争での敗北とも言われた。しかしがんやアルツハイマーといった難病に関わる肝心の遺伝子などの探索はその後のいわゆるポストゲノム研究に引き継がれることになった。

これらの遺伝子やたんぱく質の上流特許はその後の新薬、新医療の開発競争において決定的な鍵を握るだけにその囲い込みは熾烈な国家間競争の様相を呈した。

2002年に内閣府に小泉首相を議長とするバイオ戦略会議が設けられ、バイオ業界からの有識者委員を拝命し戦略大綱づくりに参画した。高崎高校同窓の上野副官房長官(参

議院、当時)も毎回出席され心強かった(衆議院は現首相の安倍副官房長官)。2004年にはポストゲノムの国家競争に備えた予算も組まれその産業界への受け皿としてバイオ産業情報化コンソーシアム(JBIC)が設立され、6年間会長を務めることになった。DNA配列をはじめとして膨大な情報が生み出されバイオインフォマティクスといわれる情報処理がキーテクノロジーとなった。様々の領域でこれらの情報を駆使したりした研究者の弛まない切磋琢磨により次々に有用な新知見がもたらされた。がん領域では従来の制癌剤と比べあきらかに腫瘍を委縮させ延命効果のあるモノクローナル抗体など分子標的薬と呼ばれる新薬が次々に世に出てきた。

さてここでこれまでの分子生物学の進歩の概略を振り返ってみよう。

1953年にワトソン・クリックが有名なDNA(遺伝子)の二重らせんの構造を解明した。これは美しいほど巧妙な生命の遺伝情報の伝達の仕組みを説明する分子生物学の最も基本となる大発見であり(1962年ノーベル賞)20世紀の科学史上最も重要な発見ともいえる。生物の形や様々な働きをするたんぱく質の設計図はDNAと

呼ばれる遺伝子に格納されそれが伝達RNAに移し替えられたのちたんぱく質に翻訳される。このDNA→(転写)→RNA→(翻訳)→たんぱく質という流れは地球上のあらゆる生物(細菌、植物、動物など)に共通の基本的経路であり、生命のセントラルドグマと呼ばれクリックにより1958に提唱された。異種間での遺伝子の組み換えができる原理でもある。大腸菌を使ってインシュリンや成長ホルモンといったたんぱく質を作る最初の遺伝子組み換え実験がいち早くコーエン・ボイヤーらにより実施された(1973)。この技術の基本特許は多くの企業にライセンスされ、最大のバイオベンチャー企業ジェネンテック社の創設につながった。微量で著効を示す生理活性たんぱく質が新しい治療薬として登場すると遺伝子クローニング、特許出願の激しい競争が始まった。アミノ酸等の画期的な発酵生産技術を開発しいち早く遺伝子組み換えに参入した協和発酵はがん化学療法により低下する白血球を増やすノイアップ製剤を上梓した。これはたんぱく質を改変した第一号のたんぱく医薬品である。

より天然型のたんぱく質を産生する宿主として動物細胞が使われるよ

うなるとそれぞれ特有の機能を持つ細胞を融合させたハイブリドーマがつくられ、その中で大きく開花した新しい医療にモノクローナル抗体がある。(ケーラー・ミルシュタイン、ノーベル賞1984)。抗体とは人のからだに本来持っている病原体を特異的にやっつける免疫反応の主体である。その仕組みを人工的に造った医薬品がモノクローナル抗体である。疾患の原因たんぱく(ターゲット抗原)を狙い撃ちすることで確かな薬効を発揮し副作用もすくない。がんなどの難病に著効を示し患者への大きな福音となった。バイオテクノロジー産業に大きな革命を起こし一躍巨大な新薬マーケットを形成し年に千億円以上を売り上げるブロックバスターが続出した。ただ微量で有効な生理活性たんぱくと違い比較的投与量が多く製造コスト、ひいては治療費が高いという問題がある。

ある年、6年余り務めた社長を退こうとしていたところ会社の抗体研究グループから大きなニュースが飛び込んできた。開発中のモノクローナル抗体の構造を一部改変したところ比活性が100倍以上も飛躍的に上がり、しかもいろんな抗体にも適用できるというのである。活性が上がり投与量が下がれば医療コストもさげられよう。文字どおり小躍りして喜んだ。ポテリジェントと命名したこの技術を旬のうちに激戦地の米国で事業化しようと現地法人を設立、この技術を発明したグループのヘッドを社長として送り込んだ。世界標準的技術として評価されいくつかの抗体メジャーにライセンス契約がなされ、共同開発という新事業展開にもつながった。ポテリジェント抗体薬の第一号は成人T細胞白血病リンパ腫に初めて著効を示し優先審査で承認を受け上梓された2013。この事業の要となるたんぱく医薬品の最新鋭の製造施設は今高崎市の工場が稼働している。

最近がんの免疫療法の壁を破った新薬が登場した。我が国の免疫研究の第一線から見出されたがん免疫のブレーキ役のたんぱくの働きを抑える新薬である。メラノーマ、肺がん、腎がんに着効を示し保険薬の承認を受け2015上梓された。しかし薬価が極めて高いため患者の多い肺がんに使われると保険制度を揺るがす医療費の膨張が懸念され薬価の再算定がとりざたされている。

2012年にノーベル賞を受賞した中山先生のiPS細胞は再生医療への期待から内外の注目を集め、国をあげてのプロジェクトとして生命科学分野ではかつてない大型研究予算が投じられている。これは分化した体細胞に発がん遺伝子など数種の遺伝子を挿入して樹立された多分化能を持つ幹細胞であり、臨床使用においては発がんなどの安全性試験をクリアすることが最大の課題となる。さらに効率的なiPS細胞の産生と多くの患者に適時供給できる細胞のストック化も課題となる。世界で最初の臨床試験が加齢黄斑網膜症を対象に実施された。心筋細胞のシートを作り心筋梗塞で壊死した心筋の再生で製造販売が承認されたり、パーキンソン氏病での試験も計画されている。

最後に今最もエキサイティングなバイオテクノロジーとして脚光を浴びているのがゲノム編集である。かの山中先生が“iPS細胞も足元にも及ばないほどはるかにインパクト大きい”と言われた新技術である。生命の設計図を簡単に正確に短時間でしかも安価に変えられる夢のような技術が現実となった。無数の遺伝子の中からピンポイントで狙った個所に切り込みを入れその部位を改変できる。長年の夢であった本格的な遺伝子治療の時代が見えてきた。すでにエイズウイルスに感染した患者のリンパ球にゲノム編集を施し発症しなくなった臨床例が発表されている。この技

術は医療に限らず、特に農水産林業、さらにバイオ燃料などのエネルギー分野への大きなインパクトが期待されている。穀量の増産、乾燥や高温など環境耐性の作物の育種、筋肉量の多い牛や魚などの育種などが従来法よりかなり短期間で可能となろう。しかしこの革命的技術はデザイナーベビーなどの出現にも悪用されかねないもろ刃の刃でもあり、生命倫理の面からしっかりした国際的なルール作りが急がれる。

イノベーションの実現にはリスクもあり、社会の理解と受け入れが欠かせない。現代社会に様々な大きなインパクトを及ぼす生命科学、技術に早いうちから親しんでもらうために教育啓蒙活動もやってきた。会社創業50周年を記念して“バイオアドベンチャー号”というライトバンに実験器具などを積んだ移動実験教室をはじめ15、6年になる。これまで都内を中心に、事業所のある地方まで小、中、高校へ50回を超える教室を開いた。今年この活動が認められ文部科学大臣賞をいただいた。

いま世界は何が起こっても驚かないようなまさに激動の時代である。しかし複雑だがきわめて優れて巧妙な生命の営みに学びそれを利用して広く人類社会の福祉の向上につながるバイオテクノロジーの進歩は何と素晴らしい夢に満ちた世界ではないだろうか。

追記:この原稿を書き終えたころ大隅先生のオートファジー研究がノーベル賞に輝くというニュースが入った。独創性が高く単独受賞が素晴らしい。がんや神経疾患などにも深くかわる生理現象であり今後広く新薬、新医療の開発に応用されることが期待されます。

寄稿



私の高高時代

(株)アイ・ディー・エー特別顧問 57期

山岸 俊之

私が高崎市立第一中学校から高高に入学したのは昭和30年(1955年)4月でした。実に60年余り前のこととなりました。当時高高は、旺文社の受験雑誌「螢雪時代」に「バラの学園」として取り上げられ、全国的に紹介されていました。このバラ園には、当時建設業のしにせ中堅建設会社として、高崎に本社を置いていた「井上工業」の会長をされていた井上房一郎氏が母校のためにとフランスから高級品種のバラを取り寄せ、しかも毎朝のようにバラ園に足を運び丹精こめて手入れをされていたのを思い出します。井上房一郎氏は、戦後、群馬交響楽団の設立、群馬音楽センターの建設、群馬県立美術館の建設など地元群馬県の文化芸術振興に貢献された高高の大先輩であります。もう一つ思い

出すことがあります。当時は、田中悦平校長の時代でした。田中校長は、イギリス紳士教育の一環として体育の時間には、ずいぶんラグビーをやったものでした。また、その話は、なかなか含蓄のある話が多かったのですが、卒業式の話の中に「これから諸君は、進学や社会に出て活躍することとなるが、人生において、酒と女性のつきあいかたには気をつけ方がよい。」との趣旨の話をされました。いつもの風格のある話と違った話でしたが、その後全国各地の転勤などいろいろな人との出会いがありましたが、この話を思い出す場面が多かったばかりか人生の生き方楽しみ方の中で重要な項目の一つだと思ったことでした。若い後輩の皆様が、世界で活躍し高高の名声を世界に轟かせて下さい。



成長感じた3年間

よみうりランド専務取締役 67期

谷矢 哲夫

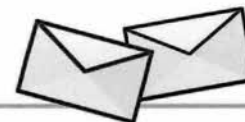
私は今66歳だから、高崎高校の3年間は人生の22分の1、わずか4.5%だ。しかし青春時代の時間は濃い。

埼玉県田舎町に育った私は、八高線で県境を越え1時間以上かけて通学した。高崎市は大都市で、教室で席を並べた同級生は皆あか抜けて優秀に見えた。「やっていけるかなあ」と不安がよぎったのを覚えている。

身体はあまり頑丈でなく、教科では国語、特に作文が最大の苦手だった。だが大学入試に論文を課すところは多く、「作文嫌いが治れば」と2年生になったとき思い切って新聞部に飛び込んだ。不思議なもので必死に取材して原稿を書いていると、だんだん文章を書くことに抵抗感が薄れ、ある時は連載した「他校訪問」(ほとんど女子高)の記事を毎日新聞が引用して全国版に掲載してくれたことがあった。そんなことで気をよくして、大学を出たあと読売新聞に入社した。

それに高々伝統のラグビー中心の体育授業のおかげで体力もついて、ハードな社会部記者を続けることができた。

読売では40歳過ぎに美術展を主催する部署に異動したが、その仕事関係で何十年かぶりに再会したのが同学年だった井出洋一郎君(元群馬県立近代美術館長)だ。井出君に監修を頼みスペインの美術展や米国フィラデルフィア美術館の展覧会などを開いた。高々の写真部長だった井出君の縁で同じ部の須田敏孝君(元森永製菓常勤監査役)、山本利行君(現ニフコ社長)とも再会でき、都会の片隅で酒を酌み交わす会をときどき開いている。4.5%の貴重な時間に感謝している。(2016年8月記) その後、井出君は病魔に冒され、10月、鬼籍に入ってしまった。残念です。



応援との出会いと今

雪印メグミルク(株)取締役常務執行役員 77期

小坂橋 正人

昭和50年4月に高高入学。応援される側の野球小僧が、応援部のリーダー公開に心奪われ、応援する側に身を置くことを決め、長い応援との関係が始まりました。卒業後もより高い組織応援に憧れ大学の応援団に入団、更に会社に入社後も冬季スポーツ応援に携わり、少し前までジャンプ陣(原田や岡部選手等)のオリンピック壮行会でエールを送る等、様々な機会を得ていました。

高校時代の思い出深い試合は、やはり昭和52年夏、北関東大会出場をかけた好投手広木(後にロッテ入団)を擁する富岡高校戦でしょうか。護国神社へ「大学に合格しなくても良いから勝たせて!」と祈願し、球場ではそれまでの思いを声に込めリーダーを振りました。敗れたものの、野球部の勇姿や応援席の風景は今も忘れられません。(大学にも合格はしませんでした笑)

卒業後、高高応援部一期先輩の井田さんが早稲田の応援部にいたことも大きく影響し、明治大学応援団の門をたたきました。練習や応援活動は想像を絶し、一人一人と同期が去って行く厳しさでしたが、連帯責任の下級生時代、団長、東京六大学応援団連盟委員長を務めた最上級生時代と、その経験は今も私の精神的支柱になっています。

信条を問われた際「志は高く 思いは強く 行動は迅速に 凡事徹底 そして前へ」と答えていますが、高校・大学を通しての応援経験が大きく影響しています。今では、応援とは他人の背中を押し支援すると同時に、自分に負けてはいけなと自らを鼓舞激励する術に他ならないもの、と確信するようになりました。

校歌の「高きを求む 夢の如くに」の通り、克己復礼、まだまだ道半ばと思い、前へ!と念じる毎日です。



久々の化粧

北海道大学教授 87期

石井 哲也

毎日の身だしなみ、男女で大きく違うこと、それは化粧だ。最近、都心で働く営業マンは化粧をして外回りする人もいるようだ、女性の方が毎日、化粧に相当の時間を費やしているだろう。4月26日、NHK渋谷で番組収録を経験した。視点・論点という学者らがレクチャーする番組である。原稿は2900字程度のものを出演者が用意する。放送局に入り、簡単な打ち合わせの後、こちらの方へと導かれる。化粧室でスタイリストが待ち受けていた。

前回、化粧したのは確か結婚式、16年前かとはんやりしているところにヘアセット、ヘアワックス(白髪隠しも兼ねている)、スキン、マユのメイクがてきぱき進められ、スタジオ入り。この番組は収録時間9分15秒、一切編集を行わないと説明を受ける。つまり1分当たり300字程度のスピードで話すことに

なる。前後15秒は許容範囲だ。講義や講演より学会発表に近いなと思っている内に収録開始。9分40秒と大幅超過してNG。プロンプターで投影された原稿の脇に経過時間が表示されているが、カメラ目線のまま、手元の24枚ある原稿を手でめくりつつ話すスピードを調整するのは意外と難しい。柄にもなく緊張してきた。ディレクターにペースが遅れたら早く〜と手をぐるぐるして促してくださいと頼み、収録2回目開始。9分25秒でなんとかOKがでた。どっと疲れが出た。

番組は4月28日朝4時20分に放映された。TVでみる自分は少し若く見え、化粧、意外といいかもしれないと感じたが、こんな早朝の番組、視ている人いるのかなと複雑な気持ちもしました。



1995年 シベリア上空(59歳)

私の仕事

元日本航空株式会社機長 岡田 亮司 旧姓 平塚 (54期)

私の職場は大空でした



2008年 マチュピチュにて(72歳)

私の仕事は飛び職(正に天職)でした。子どものころの“空を飛んでみたい”という夢を天職として全う出来た事を限りなく幸せであったと思っております。40年のフライト人生を歴年順に辿ってみてみたいと思います。

I. 飛行機との出会い

私は1936年(昭和11年)8月、群馬郡長野村に生まれました。二・二六事件のあった年の夏です。高崎の白衣観音・国会議事堂も同年生まれの同級生です。

5歳の頃、上空では2枚翼の赤トンボ(95式初練機?)が良く2機で追尾飛行などやっていました。国民学校一年生の時だったか、校庭に人文字を書いて待っていると、2機の戦闘機が頭上を掠めるように飛来し急上昇して行きました。同村出身の飛行士の出撃前の郷土訪問とのことでした。集落の森陰に戦闘機2機が、菅谷飛行場より県道を牽引されてきて隠蔽され、夕方になるとエンジン調整が行われ、その轟音が集落中に響き渡りました。コドモらで見に行き“スゲーナー”っと感嘆して帰って来ました。

II. 航空自衛隊に入隊

☆56年4月

航空自衛隊幹部候補生学校

操縦学生隊(山口県防府・途中奈良に移転)入校。54年7月に陸海空の自衛隊が創設され、空への道も再開されました。同校は瀬戸内海に面し、近くには笹竹を利用した塩田がありました。翌年10月までの1年半、基礎教育の座学(英語・幾何・物理・航空工学・航空気象等)と体育・教練の訓育を受けました。



1959年(22歳)

☆57年11月 第1操縦学校(山口県下ノ関)入校

揺籃の地小月基地で待望の飛行訓練がT-34B単発練習機により始まりました。離着陸訓練・空中操作・失速からの回復・エンジン停止時の不時着想定・Spin(木の葉落とし)からの回復・Acrobats等56時間の訓練を受けて58年2月卒業。

☆58年2月 第2操縦学校(宮城県岩沼)入校

2操校ではT-6Gという零戦に似た単発練習機で135時間の訓練を受けました。5月に単独飛行でSpin Recoveryの練習中の同期生がFlat Spinに入ってしまう、回復不能となり田圃に墜落し殉職。同期生の死は大変ショックでした。田圃の地主の方が畦に立派な慰霊碑を建立して下さり、教官・訓練生全員でその除幕式に

参列いたしました。

☆58年8月 第3操縦学校(宮城県新田原)入校

3操校でT-33A Jet 練習機による104時間の訓練を受けました。同校卒業時に校長より左胸にWing Mark を付けていただき、これで初めて航空自衛隊のPilotとして認められたことになります。過程終了時に、110名の同期生の中、Wing Markを胸に出来たのは36名でした。1~3操校の訓練過程で、技術が要求レベルに到達出来なかった者はPilotコースから外され、他部署へ転属あるいは除隊・進学などの道に進んで行きました。

☆59年8月~12月 戦闘機操縦過程学生(浜松)

浜松基地でF-86F戦闘機による編隊飛行・射撃・Dog Fighting(追尾飛行)など82時間の訓練を受けました。

☆59年12月 第4航空団(宮城県松島)配属

F-86Fの実践部隊に配属となり、射撃技術の錬度向上のための訓練やアラート勤務(緊急発進のための待機)が始まりました。

☆62年2月 偵察航空隊(埼玉県入間)転属

F-86Fから機銃を取り外し、大きなカメラを4台装備したRF-86Fの新設部隊でした。懐かしい群馬のダムや大きな工場などもターゲットに撮影飛行を行いました。

☆63年9月3等空尉で航空自衛隊を除隊

III. 1963年10月 日本航空割愛入社

60年代民間航空の拡充発展に伴い乗員が大幅に不足し、運輸省と防衛庁が割愛協定を結び、自衛隊から民間に年間数拾名を割愛することになり、その第1陣として8名の仲間と日航に入社しました。

民間の副操縦士になる為には、事業用操縦士・英検2級・航空級無線通信士・参等航空通信士の国家試験に、また機長になる為には更に航空気象・航空工学・航空法規・航法の学科と実技試験に合格する必要があります。その為の座学と自習が半年間続きました。

☆64年5~7月 渡米訓練(カリフォルニア・サンノゼ)

双発ビジネス機による計器飛行、航法訓練などを受け事業用操縦士資格を得て帰国。

☆65年5月 DC-6B型機輻操縦士

DC-6は二次大戦後生まれの傑作4発プロペラ機です。機長、

機関士は外国人で、日本人機長はDC-8型機への移行中でした。担当した路線は主に夜間の札幌便(オーロラ)、大阪・福岡便(ムーンライト)でした。

☆66年8月 DC-8型機副操縦士

DC-8は第1世代のジェット旅客機で、ホノルル・サンフランシスコ・ロサンジェルス太平洋路線に勤務しました。初期のDC-8のエンジンは燃費が大きく、ホノルルまでの途中で、ウエーキ島に給油の為寄港していました。太平洋路線の飛行は、まだ推測航法で行われており航空士が搭乗、天窓を開けて6分儀で天測をしたり、ロラン局を使って位地を掴んだりしてのアナログ的なものでした。67年にはドップラーレーダーによる自蔵航法が取り入れられ、航空士は不要となり、エンジンも改良され、ウエーキ島への寄港もなくなりました。

☆67年5月～69年5月 日航仙台基礎訓練所教官

月1回太平洋線を飛びながら双発機の教官を兼務。

☆69年11月 CV-880型機幅操縦士

☆70年6月 CV-880型機機長

日航に入社して6年余、33歳で待望の機長を拝命しました。社長面談を受け、機長としての責任の重大さを再認識し、安全運航の実施に万全を尽くすべく覚悟を新たにいたしました。担当路線は東南アジアでした。離着陸の緊張感、フライトの終わった後の達成感、充足感を機長になってはじめて味わいました。当時の香港空港は南向きに着陸する場合、西から東へ岩山に向かって進入し、滑走路の延長線手前で右に90度ひねって着陸するという難度の高い、しかしPilotにとってはやり甲斐のある空港でした。

☆1971年6月 DC-8型機機長

担当路線は東南アジア線と南廻りヨーロッパ線でした。日本企業のアジア、中東などへの進出が著しい時代で、寄航国や寄航地、航路、便数などはその需要や国際情勢などにより、頻繁に変更されました。

☆南廻りヨーロッパ線(空のシルクロード)

当路線は東京から東南アジア、中東を経てロンドンに至る長大路線で、東京のクルーが中東まで、その先ヨーロッパまでは、ローマ駐在のクルーによって運航されました。週2便の運航でしたので、客室乗務員は東京ロンドン往復に1ヶ月前後を要する大変なものでした。私の係わった寄港地を列挙してみます。香港、バンコク、デリー、ボンベイ、カラチ、テヘラン、クエート、バーレン、ドバイ、アブダビ、ジェッダ、ペイルート、カイロ、アテネ、ローマ、パリ、フランクフルト、ロンドン以上18都市におよびました。(太字は宿泊地)

☆ローマ運航駐在員(72年12月～75年12月)

機長8名、副操縦士7名、航空機関士5名の20世帯のグループでローマに赴任しました。赴任中色んな出来事に遭遇しましたが、いくつかを紹介してみます。

☆ペイルート空港へのイスラエル機の攻撃(73年11月26日)

テヘランからイラク・シリア・トルコ・キプロスの上空を経てペイルート空港に着陸しました。駐機後、滑走路の向こうに硝煙が見えたので、地上スタッフに何かと尋ねたところ「30分程前にイスラエル機による攻撃があった」といって気にしていない様子。度々の中東戦争で慣れっこになっているのか、こちらに一報も無く着陸させたのは問題であり、クレームをつけておきました。

☆THRの大雪(73年12月12日)

深夜テヘランに着陸すべく最低侵入高度まで降下した際に滑走路灯がちらちらと視認できました。然し肝心の滑走路中心灯が見えず、横殴りの大粒の雪が斜めに走り、このまま接地したら錯覚による滑走路逸脱の可能性があるかと判断、着陸復行しイラン南部のアバダン空港へダイバード(目的地変更)し着陸しました。強行着陸しなくて本当に良かったと今も思っています。

☆素晴らしいアルプス超え

好天の日、ローマからヨーロッパ方面に飛ぶ時、4000m級のアルプスの山々(モンブラン・モンテローザ・マッターホーン・ユングフラウ・メンヒ・アイガー等々)素晴らしいパノラマを堪能することが出来ます。こんな時Pilot冥利を痛感しました。

☆77年2月 DC-10型機(第3世代旅客機)機長

担当路線は国内・グアム・サイパン・アンカレッジ経由ニューヨーク線でした。

☆82年5月～84年5月

下地島乗員訓練所(宮古島市)

主席教官兼務。

☆84年11月 DC-10型機査察操縦士

☆90年11月 B747-400型機機長

B747-400は第4世代の航空機で技術は更に進歩し、高度にデジタル化され、計器表示もブラウン管に置き換えられました。情報が明確化され、装置の自動化が進み、視界・雲低がゼロゼロの状況下でも自動着陸が可能となりました。担当は香港国内線及びニューヨーク・ロスアンジェルス・ロンドン・パリ・フランクフルトの直行長距離路線でした。



1991年夏、香港空港(55歳)
たまたま同乗のCAの三女と記念SHOT

☆シベリア上空で外気温-70℃を体験

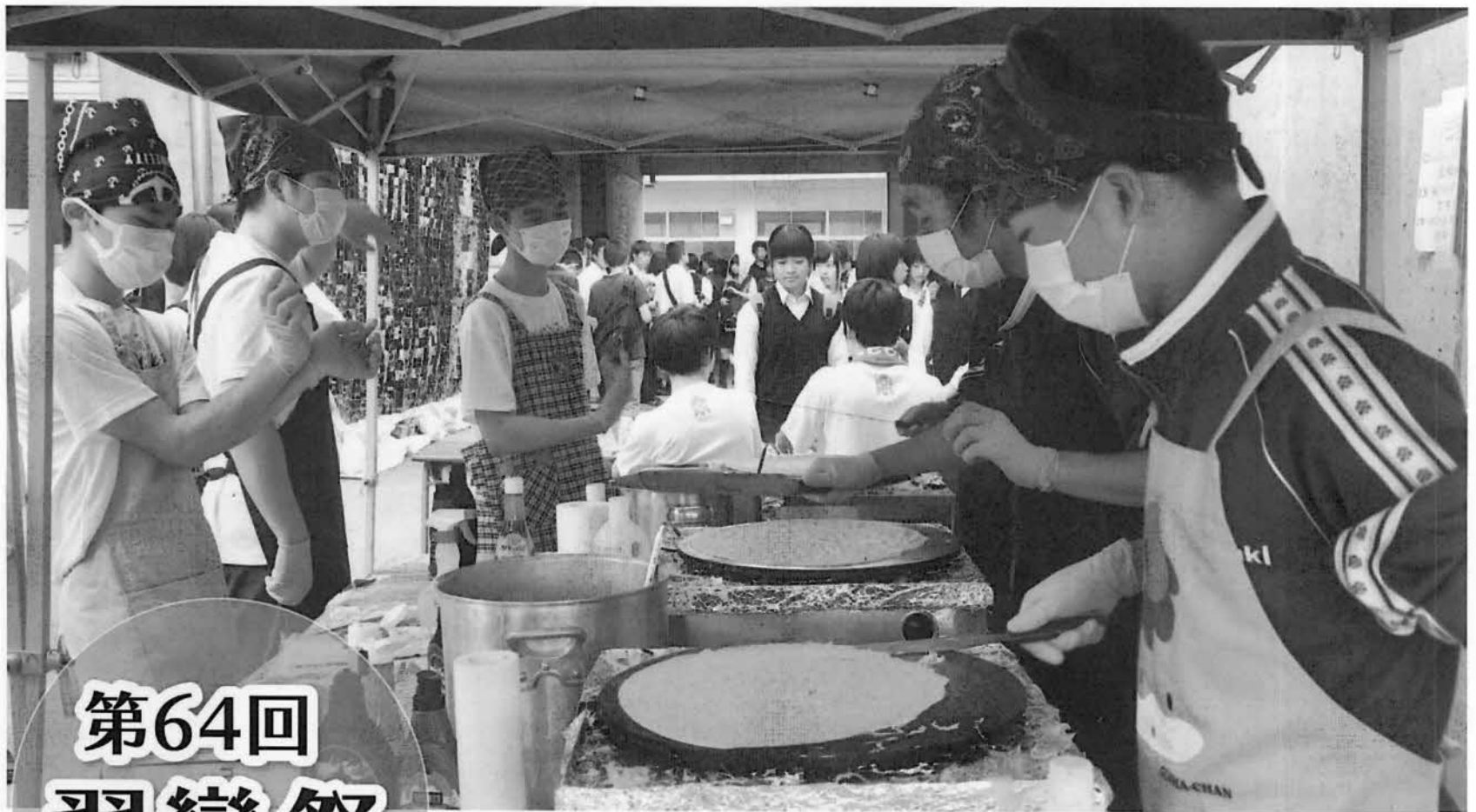
低温下で長時間飛行を続けると、燃料の温度も徐々に低下し、油温-30℃以下になると燃料がジェリー状になり、エンジンに流れなくなります。当日も徐々に-30℃に近づいて来ました。高度を下げれば温度は上昇しますが、燃費が増えるため、機速をぎりぎりまで上げ、機体の摩擦熱でなんとか切り抜けました。

☆阪神大震災に遭遇:95年1月17日

JL422便でロンドンを出発、関西空港へ向けオランダ上空を上昇中、機内ファックスで「関西地方で大地震発生、被害が出ている模様」と第1報が入りました。次々に送られてくる情報で被害が甚大であることがわかってきました。幸い空港には被害が無く、午後5時無事着陸しました。羽田までは勤務外乗務で帰りましたが、燃え盛る神戸の街を眼下にしながら、亡くなられた方々のご冥福を祈るのみでした。

IV.1996年8月 日本航空を停年退職

(総飛行時間15,422時間32分)。長いフライト人生で、数拾万人のお命をお預かりし、責務を全う出来た事は喜びであり満足し誇りにも思っております。然しそのフライト人生は、厳しい気象条件との闘い、健康・技量維持管理等平穏なものではありませんでした。また自衛隊の同期生8名日航同期生2名を事故で失うという悲しい出来事もありました。日本航空としては、次々と大事故を起こしてしまい、世間様には多大なご迷惑をおかけいたしました。事故は二度と起こしてはなりません。現在機材・エアーマンシップ・安全管理等厳しく実施されております。どうぞご安心の上ご搭乗ください。



第64回 翠巒祭

テーマ: Plant&Raise



パンフレットデザイン

第64回翠巒祭は「Plant&Raise」というテーマを掲げ、新たな伝統を高高に植え、それを育てていこうという気持ちで、今までの良き伝統には改良を加えより良いものにし、またこの先続いていくような新たな伝統も作り出そうと努力しました。結果として、来場者数こそ記録を更新できなかったものの、売り上げでは記録を大幅に更新し「翠巒ステーション」などの新企画も大成功となりました。

全てが完璧ではありませんでしたが、後輩たちには今回の反省をこれからの翠巒祭の発展に役立ててほしいと思います。来年が最高の翠巒祭になることを期待しています。

翠巒祭は実行委員だけの力でできるものではありません。準備から当日の仕事をしてくれた生徒の方々、翠巒祭の何か月も前から手伝っていただいた先生方、そして地域の方々や保護者の方々、またOBの方々の暖かい支援によって翠巒祭は毎年開催することができています。

翠巒祭に協力していただいたすべての方にこの場を借りて感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

第64回翠巒祭実行委員長 3年 齊藤大樹



第70回 定期戦



これまでの戦績は高高40勝、前高24勝、引き分け3です。

昨年負けた悔しさを抱えたままでの練習が実を結び、無事第70回定期戦は勝利することが出来ました。今回は一般対抗の点差が勝負の分かれ目となりました。

一般対抗の勝ち越しの要因は、一重にチーフを中心に練習に励んでくれたことだと思います。練習参加率も非常に高く、高高生が一丸となって定期戦を戦いきることが出来ました。勝利した時の喜びは何にも代えがたいものであり、一生の思い出となりました。

実行委員長として私は「なぜ定期戦に勝ちたいと思うのか」について考えてきました。たどり着いた答えは「伝統の重み」でした。今まで築かれてきた高高の伝統、定期戦の伝統に思いをはせることで、勝ちたいという気持ちが強くなるのです。それが定期戦を熱い戦いへと昇華させます。そして勝利した高校は連覇をめざし、負けた高校は次回の勝利をめざして、それぞれ練習に励みます。こうして毎年新たな伝統が紡がれていくのです。

近年、両校ともに連覇を果たせずにいます。来年も勝利し後輩たちには長い伝統に残る快挙を成し遂げて欲しいと思います。期待しています。頑張ってください。

第70回定期戦実行委員長 3年 横田 響



第70回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	0	9
		駅 伝	9	0
		綱引き	6	3
		玉入れ	6	3
		ソフトボール	9	0
		長縄跳び	0	6
0	6	卓 球	1	8
6	0	陸上競技	6	3
中止		ソフトテニス	6	3
6	0	バレーボール	7	2
6	0	バスケットボール	6	3
0	6	空手道		
6	0	柔 道		
0	6	剣 道		
0	6	弓 道		
6	0	サッカー		
6	0	ラグビー		
0	6	硬式野球		
0	6	軟式野球		
中止		テニス		
36	36	小 計	56	40
92	高高	総 合	前高	76

第68回 マラソン大会

平成28年11月17日(木)

青く澄みきった空の下、第68回高崎高校校内マラソン大会が11月17日(木)に学校周辺の方々のご理解とご協力で行われた。スタートは護国神社から真っ直ぐ和田橋に向かって走るのであるが、道路幅全体に広がった生徒のために信号機を一時止めていただく高崎警察署に本当に感謝申し上げたい。コース(9.1 km)の前半は長い上り坂が続き、白衣観音を過ぎると平らになり、洞窟観音方面に向かう辺りから急激な下り坂となる。清水寺の石段下から高高まではほぼ平らなる辺りが精神的に一番しんどい場所である。優勝者のタイムは32分53秒で3連覇という快挙を達成した。勿論全員が完走することができた。午後の表彰式は体育館でクラス表彰、個人表彰が行われ、その後各教科や生徒会からの特別賞が渡された。

コース

START 護国神社前【10時】→

国立のぞみの園→白衣観音→洞窟観音入口→

高崎高校トラック内→ **GOAL**



護国神社前のスタートダッシュ



白衣観音下で力走する生徒たち



銀杏並木でのラストスパート

進路状況(全日制) ()内は現役

大学	年次	28年	27年	26年	大学	年次	28年	27年	26年	大学	年次	28年	27年	26年
北海道大		11(4)	10(6)	9(8)	金沢大		15(13)	13(12)	13(13)	中央大		76(52)	55(47)	66(46)
東北大		29(19)	27(22)	30(25)	信州大		9(6)	6(5)	4(2)	明治大		67(40)	57(47)	84(64)
筑波大		5(4)	8(7)	5(4)	名古屋大		2(2)	3(3)	5(5)	上智大		8(7)	9(8)	20(10)
千葉大		7(7)	5(3)	9(7)	京都大		5(2)	2(0)	8(6)	立教大		22(13)	8(6)	16(10)
群馬大		39(30)	31(27)	27(20)	高崎経済大		15(15)	15(12)	15(15)	青山学院大		30(24)	15(10)	26(21)
埼玉大		5(4)	5(5)	6(5)	首都大東京		2(0)	6(4)	7(5)	法政大		56(42)	32(29)	48(39)
東京大		13(8)	9(4)	10(6)	国公立大					日本大		58(44)	56(41)	75(58)
一橋大		0(0)	1(0)	4(3)	医学部医学科		16(9)	4(4)	10(7)	東京理科大		117(87)	72(39)	114(77)
東京工業大		2(2)	1(0)	3(2)	慶應大		35(23)	21(11)	30(11)	芝浦工業大		76(58)	38(34)	71(58)
東京外国語大		3(1)	3(3)	1(0)	早稲田大		54(29)	46(23)	52(31)	明治学院大		10(4)	8(7)	12(10)
横浜国立大		6(6)	4(4)	4(2)						同志社大		4(4)	4(3)	5(3)
新潟大		17(10)	10(6)	11(8)						立命館大		12(8)	10(5)	18(9)



母校だより

各部の活躍・活動

運動部の活動

バスケットボール部 3年 毛呂駿臣

13年ぶりにインターハイ県予選で優勝し、このチームの目標であったインターハイに出場することが出来ました。日々御指導していただいた顧問の先生、多大なる支援をいただいているOB、保護者、そして決勝戦では会場に駆けつけ、大声援で後押ししてくれた多くの仲間たちに深く感謝申し上げます。

全国大会では、初戦敗退という結果で終わってしまいましたが、広島で全国の強豪高校と肩を並べ、戦えたことはとても良い経験となり、これからの人生の大きな財産となりました。すでに後輩たちがもう一度この舞台にという目標を持ちスタートしています。これからも高崎高校バスケットボール部をよろしくをお願いします。



全国大会出場

ラグビー部 主将 3年 小林竜也

我々ラグビー部は、12年ぶりに群馬県7人制ラグビー大会で優勝を果たし、第3回全国高校7人制ラグビー大会に出場しました。顧問の先生、外部コーチの方々のご指導や、OB・保護者をはじめとして多くの方々のお蔭でこのような結果を残すことができました。本当に感謝しております。

全国大会の舞台では、各県強豪校の身体の高さに驚き、また彼らのオーラを肌で感じる事ができました。全国大会を体験できたことも大きい収穫になりました。一日目の予選リーグでは香川県代表の高松北高校にキック差で勝利しましたが、兵庫県代表の報徳学園高校に敗れ、2位トーナメントに進出しました。二日目の2位トーナメント一回戦で埼玉県代表の慶應志木高校にゼロ封され、初戦敗退に終わりました。

この経験を活かして、15人制でも県で優勝できるように努力していきますので、これからも我々高崎ラグビー部をよろしくをお願いします。



全国大会出場メンバーを含むラグビー部員

- ①関東大会
- ②インターハイ予選
- ③全国高校総体
- ④国体
- ⑤県新人大会
- ⑥その他の大会

硬式野球部

○春季関東地区高校野球大会群馬県予選

- 2回戦 高崎 4 - 0 常磐高校
- 3回戦 高崎 10 - 0 市立太田高校
- 4回戦 高崎 4 - 6 前橋育英高校

ベスト16

○全国高等学校野球選手権群馬大会

- 2回戦 高崎 0 - 7 伊勢崎清明高校

○秋季西毛リーグ

高崎 5 - 0 明和県央

高崎 3 - 1 1 健大高崎

高崎 3 - 3 藤岡中央

高崎 6 - 1 中央中等

高崎 6 - 3 富岡高校

第2位

○秋季関東地区高校野球大会群馬県予選

1回戦 高崎 10 - 0 利根実業

2回戦 高崎 4 - 1 藤岡工業

3回戦 高崎 3 - 2 渋川青翠

準々決勝 高崎 4 - 3 前橋西高

準決勝 高崎 0 - 1 0 前橋育英

ベスト4

ラグビー部

○第3回全国高校ラグビー7人制大会

予選プール 高崎 14 - 10 高松北

高崎 12 - 40 報徳学園

プレートトーナメント(2位トーナメント)

高崎 0 - 36 慶応志木

○1年生大会(合同チームとして)準優勝

合同D(高崎・高工) 45 - 0 合同C

合同D(高崎・高工) 45 - 5 合同E

合同D(高崎・高工) 0 - 22 県央

⑥全国高校ラグビー群馬県予選

高崎 27 - 19 桐一

高崎 12 - 53 農二

第3位

サッカー部

②4回戦 高崎 2 - 0 太田

準々決勝 高崎 0 - 3 常磐

ベスト8

⑥高校サッカー選手権大会予選

4回戦 高崎 2 - 1 伊勢崎工業

準々決勝 高崎 1 - 4 前橋商業

ベスト8

バレーボール部

- ① 1 回戦 高崎 0 - 2 千葉商大附
 ② 3 回戦 高崎 2 - 0 前南
 準々決勝 高崎 2 - 0 前橋
 準決勝 高崎 1 - 2 伊勢崎 第 3 位
 ⑥ 西毛地区大会
 準々決勝 高崎 2 - 0 農二
 準決勝 高崎 0 - 2 県央 第 3 位
 全日本バレーボール高等学校選手権大会
 県予選会
 3 回戦 高崎 2 - 0 太田
 準々決勝 高崎 2 - 0 前南
 準決勝 高崎 0 - 2 高工 第 3 位

陸上競技部

- ①② 関東高校陸上競技大会(駒沢)
 兼インハイ予選
 高橋優作(3年)100m 予 1位
 高橋優作(3年)100m 準 1位
 高橋優作(3年)100m 決 4位
 竹澤 陸(3年)100m 予 4位
 竹澤 陸(3年)100m 準 6位
 武士文哉(3年)800m 予 8位
 猿谷 亮(3年)110mH 予 1位
 猿谷 亮(3年)110mH 準 2位
 猿谷 亮(3年)110mH 決 3位
 金子哲佳(3年)3000mSC 予 5位
 金子哲佳(3年)3000mSC 決 10位
 矢野泰生(3年)5000mSC 決 9位
 4×100mR
 上村越之(2年)1走 予 3位
 高橋優作(3年)2走 予
 竹澤 陸(3年)3走 予
 安達宗次郎(2年)4走 予
 上村越之(2年)1走 決 6位
 高橋優作(3年)2走 決
 竹澤 陸(3年)3走 決
 安達宗次郎(2年)4走 決
 金光雄紀(3年)やり投 決 12位
 ③ 全国高校総体(岡山)
 高橋優作(3年)100m 予 2位
 高橋優作(3年)100m 準 6位
 猿谷 亮(3年)110mH 予 2位
 猿谷 亮(3年)110mH 準 8位
 4×100mR
 上村越之(2年)1走 予 6位
 高橋優作(3年)2走 予
 竹澤 陸(3年)3走 予
 吉井柊人(2年)4走 予
 ④ 国民体育大会(岩手)
 高橋優作(3年)100m 予 4位
 高橋優作(3年)100m 準 4位
 高橋優作(3年)4×100mR 3走 群馬チーム
 ⑤ 学校対抗(前橋)
 高橋優作(3年)100m 決 1位

- 竹澤 陸(3年)100m 予 3位
 竹澤 陸(3年)200m 準 1位
 吉井柊人(2年)400m 決 6位
 武士文哉(3年)800m 決 2位
 武士文哉(3年)1500m 決 5位
 金子哲佳(3年)3000mSC 予 3位
 矢野泰生(3年)5000mW 予 1位
 内田朋秀(3年)5000mW 予 5位
 4×100mR
 上村越之(2年)1走 決 3位
 高橋優作(3年)2走 決
 竹澤 陸(3年)3走 決
 吉井柊人(2年)4走 決
 4×400mR
 高橋優作(3年)1走 決 3位
 吉井柊人(2年)2走 決
 上村越之(2年)3走 決
 竹澤 陸(3年)4走 決
 金光雄紀(3年)やり投 決 1位
 ・男子総合成績(一部校12校中)第 3 位
 ⑥ 県高校新人大会(前橋)
 吉井柊人(2年)400m 決 2位
 西巻仁貴(2年)800m 決 5位
 藤本 巧(1年)800m 決 7位
 4×400mR
 田巻月雅(1年)1走 決 3位
 吉井柊人(2年)2走 決
 今井 樹(2年)3走 決
 上村越之(2年)4走 決
 ⑦ 関東高校選抜新人大会(熊谷)
 吉井柊人(2年)400m 決 6位
 4×400mR
 植木辰乃介(1年)1走 決 4位
 吉井柊人(2年)2走 決
 今井 樹(2年)3走 決
 上村越之(2年)4走 決
 ⑧ 県高校駅伝
 (伊勢崎市陸上競技場周回コース)
 ・総合成績 第 8 位
 1区 金子哲佳(3年)
 2区 藤本 巧(1年)
 3区 武士文哉(3年)
 4区 茂原將悟(2年)
 5区 井上湧斗(1年)
 6区 戸塚有輝(2年)
 7区 西巻仁貴(2年)

水泳部

- ① 関東大会県予選会
 50m自由 増田 亮 3位
 須田大輝 4位
 100m自由 中島悠太 5位
 100m自由 須田大輝 6位
 200m自由 中島悠太 4位
 400mリレー 3位
 800mリレー 4位

400mメドレーリレー 6位
 以上、6 種目関東大会出場

- ⑤ 県新人大会
 50m自由 井尻雅人 1位
 50mバタフライ 井尻雅人 1位
 50m背泳ぎ 吉田知生 6位
 50mバタフライ 宇都宮琉也 2位
 100mバタフライ 宇都宮琉也 3位
 50m平泳ぎ 古川竣介 1位
 100m平泳ぎ 古川竣介 3位
 200mリレー 2位
 200mメドレーリレー 2位
 ⑥ 県総体
 50m自由 増田 亮 5位
 須田大輝 8位
 100m自由 中島悠太 3位
 増田 亮 8位
 200m自由 中島悠太 2位
 400mリレー 3位
 800mリレー 5位
 400mメドレーリレー 4位

ソフトテニス部

- ② インターハイ予選
 1 回戦 高崎 3 - 0 尾瀬
 2 回戦 高崎 2 - 1 中之条
 準々決勝 高崎 0 - 2 高崎商業
 ベスト 8
 ⑤ 県新人大会
 1 回戦 高崎 3 - 0 新田暁
 2 回戦 高崎 2 - 1 沼田
 準々決勝 高崎 0 - 2 高崎商業
 ベスト 8
 ⑤ 県夏季大会
 1 回戦 高崎 3 - 0 前橋
 2 回戦 高崎 2 - 1 育英
 準々決勝 高崎 1 - 2 中之条
 ベスト 8

卓球部

- ② 2 回戦敗退
 1 回戦 高崎 3 - 0 安総
 2 回戦 高崎 0 - 3 高商
 ⑤ 2 回戦敗退
 1 回戦 高崎 3 - 0 ろう
 2 回戦 高崎 1 - 3 前橋
 ⑥ 強化大会
 ベスト 6 4 有留
 全日本選手権予選(ジュニア)
 ベスト 6 4 原澤・高山

剣道部

- ② インターハイ予選
 1 回戦 高崎 5 - 0 利商

2回戦 高崎5-0 清明
3回戦 高崎1-3 渋川 ベスト16
○学校対抗選手権
2回戦 高崎0-3 館林 ベスト32

柔道部

- ①団体戦トーナメント
1回戦 高崎0-3 横浜(神奈川)
②団体戦
2回戦 高崎5-0 伊工
準々決勝 高崎1-4 常磐 ベスト8
個人戦 内山栄太郎 73kg級 第3位
高橋俊圭 73kg級 ベスト8
小林 陸 81kg級 第3位
湯本祥伍 100kg級 ベスト8
④個人戦 小林 陸 90kg級 第3位
⑤団体戦 第6位
⑥平成28年度少年柔道強化選手選考会
*県強化選手 和田智輝 60kg級 4位
野本龍也 73kg級 5位
小林 陸 90kg級 5位
*県強化選手 湯本祥伍 100kg級 2位

《相撲競技》

- ①団体戦 予選リーグ
高崎0-5 東洋大牛久(茨城)
高崎1-4 都留興譲館(山梨)
高崎1-4 蔵(埼玉) 予選敗退
個人戦 4名参加

弓道部

- ①関東大会出場(団体予選不通過)
②インターハイ予選 団体3位
⑤県新人大会 団体7位
⑥東日本大会県予選会 団体3位
本大会出場(埼玉県)

空手道部

- ②団体組手 高崎0-3 前商
個人形 初戦敗退
個人組手 宮下 翔 3回戦敗退
他3名 初戦敗退
⑤団体組手 高崎0-3 中之条
個人形 初戦敗退
個人組手 初戦敗退
⑥1・2年生大会
個人形 初戦敗退
個人組手 初戦敗退

軟式野球部

- ②全国選手権県予選
1回戦 高崎2-0 前橋育英

2回戦 高崎7-1 前橋商業
準決勝 高崎4-2 桐生
決勝 高崎0-1 高崎商業(準優勝)
⑤県新人大会
2回戦 高崎5-1 桐生工業
準決勝 高崎2-4 桐生(第3位)

テニス部

- ②インターハイ予選
団体 ベスト16
シングルス ベスト64 谷屋・赤池
ダブルス ベスト32 谷屋・長壁、
山岸・小屋
⑤県新人大会
団体 ベスト16
シングルス ベスト32 赤池・山岸
ベスト64 大崎
ダブルス ベスト16 赤池・山岸

バドミントン部

- ②団体戦 2回戦 高崎2-3 桐南
2回戦敗退
⑤ダブルス ベスト16(金井・日比野)
団体戦 2回戦 高崎3-0 渋川青翠
3回戦 高崎0-3 桐商
ベスト16

スキー・スケート部

- 県ショートトラックスピード競技会
高校生 500m 1位 丸山凜太郎
高校生 1000m 1位 丸山凜太郎
高校生 1500m 1位 丸山凜太郎

バスケットボール部

- ②インターハイ予選
1回戦 高崎206-31 藤北
2回戦 高崎185-26 大泉
3回戦 高崎120-86 樹徳
準々決勝 高崎 80-63 高商
準決勝 高崎 84-82 育英
決勝 高崎100-83 太東
13年ぶり16度目の優勝
③全国高校総体(インターハイ)
1回戦 高崎 60-83 大分舞鶴
初戦敗退
④国体関東ブロック大会
◎3年野本大智、坂東俊紀の2名参加
1回戦 群馬103-67 山梨
2回戦 準決勝 78-114 茨城
第3位
⑥全国選抜県予選会
準々決勝 高崎 65-81 新島
⑥西毛地区新人大会 優勝

1回戦 高崎133-49 富岡
2回戦 高崎151-22 下仁田
準決勝 高崎102-60 健大高崎
決勝 高崎 89-82 新島

山岳部

- ①関東高校登山大会 埼玉県雲取山出場
10/28~30
⑤県新人登山大会(四阿山) 10/14~16
男子縦走 第6位 竹上京里

應援部

- 4月 新入生への校歌指導
○5月 県高校総体各部応援
○6月 翠巒祭定例リーダー公開
○7月 硬式野球部夏季大会応・4校合同
リーダー公開
○9月 定期戦
○秋季大会各部応援



バレーボール部



軟式野球部



ラグビー部

学芸部の活動

新聞部 部長 2年 福島 蓮

我々新聞部は現在9名で活動しています。

主な活動としては、「高崎高校新聞」(業者印刷)、「Mini Press」(校内印刷)、「前高合同新聞(定期戦)」の発行です。そのために、編集会議、紙面のレイアウト作り、取材(写真)、記事作成などを、部員一同で協力して行っています。

今年度の「群馬県高校新聞コンクール」は知事賞(最優秀賞)をいただき6連覇を達成することができました。また、「全国高校新聞年間紙面審査」では優良賞(8年連続)、「(全国)高校新聞部インターハイ新聞コンクール」で奨励賞を初受賞しました。

意識を高く持ち、どこにも負けない新聞を発行していきたいと思っています。ご協力・応援をよろしくお願いいたします。



知事賞受賞の新聞部員

マンドリン部 2年 毒島 俊樹

私達マンドリン部は、2年生16人、1年生17人の計33人で毎日楽しみながらも、県大会で最優秀賞を取れるように一生懸命練習に取り組んでいます。

私達の活動は主に翠巒祭、毎年7月に行われる定期演奏会、9月に開かれる群馬学生ギター・マンドリンフェスティバル、クリスマスコンサートでの演奏と、2月に開かれるコンクールへの参加です。

今年の2月11日に開催された群馬県ギター・マンドリンコンクールで史上最高順位である2位を獲得しました。また、7月に開催された全国大会では優良賞を貰うことができました。

また、来年には第50回となる定期演奏会を控えており、非常に歴史のある部活となっています。

これからも部員一同、皆様を感動させられるような演奏ができるように日々努力していきますので応援よろしくお願いいたします。



全国大会に出場したマンドリン部

物理部

- 全国物理コンテスト物理チャレンジ
第2チャレンジ参加 後藤 輝
- ロボカップジュニアジャパン2016愛知
サッカーライトウェイトセカンダリ出場

美術部

- 平成28年度第40回群馬県高等学校芸術祭
美術部門奨励賞 3年 戸谷友祐

吹奏楽部

- 11月/西部地区アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 金賞(地区代表)
クラリネット四重奏・木管三重奏・
金管三重奏 銅賞
- 12月/県アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 金賞(県代表)
- 1月/西関東アンサンブルコンテスト
打楽器三重奏 銀賞
- 3月/第57回定期演奏会
- 5月/創部77周年記念演奏会出演
西部地区ソロコンテスト

前田知樹(ホルン)・栗原正明(ホルン)銀賞

吉田尚武(チューバ)銅賞

- 8月/県吹奏楽コンクール
高校A組 銀賞

マンドリン部

- 2月/第46回群馬県高等学校ギター・
マンドリンコンクール 第2位
- 7月/第49回定期演奏会
- 7月/平成28年度全国高等学校ギター・
マンドリン音楽コンクール 優良賞
- 9月/第12回群馬学生ギター・
マンドリンフェスティバル参加
- 12月/第19回クリスマスコンサート参加

合唱部

- 《27年度》
- 1月/第9回群馬県声楽アンサンブル
コンテスト 銅賞
- 《28年度》
- 5月/高崎高校合唱部定期演奏会
- 7月/第56回群馬県合唱コンクール 銅賞
- 8月/第40回全国高等学校総合文化祭

合唱部門(群馬県合同合唱団として参加)

- 10月/第22回群馬県高等学校総合文化祭
総合開会式アトラクションに参加
- 10月/第22回群馬県高等学校総合文化祭
合唱・器楽管弦楽2専門部大会に参加
- 12月/第19回クリスマスコンサート
- 1月/第10回群馬県声楽アンサンブル
コンテスト

和太鼓部

- 7月/第10回群馬県高校生郷土芸能発表会
参加
- 7月/第40回全国高等学校総合文化祭
(2016ひろしま総文)郷土芸能部門 参加
- 10月/第22回群馬県高等学校総合文化祭
総合開会式アトラクション 参加
- 11月/第22回群馬県高等学校総合文化祭
郷土芸能専門部大会 優秀賞
- 12月/第19回クリスマスコンサート
- 3月/高崎高校和太鼓部第9回定期演奏会
その他、地域の祭りやイベントに多数参加
した。

演劇部

- 9月17日・18日 平成28年度群馬県高校芸術祭演劇部門西毛地区大会
中村千智/作『ドーン』 特別賞受賞
- 平成29年度 第19回安中西毛地区演劇祭参加予定

囲碁部

- 第40回全国高校囲碁選手権大会 群馬県大会
団体戦 準優勝
個人戦 優勝(石井)、3位(鈴木)、4位(萩尾)
- 第40回全国高等学校総合文化祭(広島大会)
団体戦 出場(鈴木、萩尾)
個人戦 出場(石井)
- 第32回関東地区高校囲碁選手権大会
群馬県予選会
団体戦 優勝
個人戦 優勝(石井)、4位(萩尾)
(団体・個人関東大会出場)

将棋部

- 5月/第43回 群馬県高等学校将棋選手権大会 2回戦敗退
- 6月/第1回 将棋棋力認定大会
- 9月/第27回 関東地区高等学校文化連盟将棋大会 群馬県予選
- 10月/群馬県総文祭・交流会
- 11月/第22回 群馬県高等学校将棋新人大会
- 2月/第2回 将棋棋力認定大会

鉄道研究部

- 2016年全国高等学校鉄道模型コンテスト 出場

新聞部

- 第30回県高校新聞コンクール
知事賞[最優秀賞](6年連続)
- 第20回全国高校新聞年間紙面審査賞
優良賞(8年連続)
- 第3回(全国)高校新聞部インターハイ
新聞コンクール 奨励賞(初)
- 「高崎高校新聞」・「高崎高校新聞翠巒MiniPress」発行
- 定期戦速報「高前高合同新聞」発行
(県立前橋高校新聞委員会と合同製作)
- 第40回全国高校総合文化祭広島大会参加
- 県高校総合文化祭特報新聞
「上州若人」取材参加

放送メディア部

- 平成28年度第63回NHK杯全国高校放送コンテスト群馬県大会
ラジオドキュメント部門 「優秀賞」
テレビドキュメント部門 「優秀賞」

写真部

- 3月/清泉女子大学合同写真撮影会参加
- 4月/春の合同写真撮影会参加
- 10月/第33回群馬県高校写真展出品
奨励賞 3年 戸谷 友祐「春告鳥」

地学部

- 夏季休業中に伊豆大島巡検を実施
- 県理科研究発表会『ベルセウス座流星群観測』『伊豆大島巡検』発表



翠巒祭での化学部の展示

JRC

- 7月/平成28年度日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字国際交流派遣(シンガポール)事業 1名参加
- 7月/平成28年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター 5名参加
- 10月/高崎地区青少年赤十字清掃活動 11名参加
- 10月/第22回群馬県高等学校総合文化祭
青少年赤十字専門部交流会 6名参加
- 10月/高崎地区青少年赤十字トレーニングセンター 4名参加
- 12月/歳末助け合い募金 参加

数学部

- 7月/群馬県高校生数学コンテスト 参加
- 8月/数学甲子園2016 参加



鉄道研究部の精巧なジオラマ

目指せ
全国優勝

科学の甲子園



科学の甲子園は、筆記、実技、実験の3つの観点から、物理、化学、数学、生物、地学、情報の6科目についての力を全国の高校生が競う大会です。私達は二年生6人、一年生2人、計8人のメンバーでチームを組み、科学の甲子園に参加しました。

まず、県予選に向けては、主に筆記競技と実技競技へ向けての対策を主にしていました。筆記競技対策では過去問の演習を繰り返し行い、実技競技対策では事前に与えられた「指定された距離で丁度止まる車を製作せよ」という課題に対し、最善の結果が出せるようチーム全員で話し合い、試行錯誤を繰り返しました。

結果、先生方のご協力もあり、県予選で男子校としては初めての一位を獲得することができ、茨城県で行われる全国大会への出場権を獲得しました。

全国大会では県予選よりも更にレベルの高い相手と競うことになり、各競技の難易度も大きく上がります。実際に全国大会へ向けて筆記競技の演習をしていたところ、勉強不足と対策の必要性を改めて感じました。群馬県勢はこれまでの大会では、目立った結果を残せていないそうです。しかし、中学生版の科学の甲子園ジュニアで群馬県チームが全国優勝したように、私達も全国優勝を本気で目指して励んでいきます。



◆同窓会役員紹介

名誉顧問	中曽根康弘	(35期)	本部幹事長	立見 友孝	(63期)
顧問	横田 英一	(50期)	本部幹事	仙田 健一	(67期)
同	原 浩一郎	(56期)	同	佐藤 修	(70期)
同	佐藤 和徳	(57期)	同	中村 康晴	(73期)
会長	串田 紀之	(67期)	同	秋山 賢治	(74期)
副会長	阿久澤 茂	(69期)	同	橋爪 良真	(75期)
同	坂本 正樹	(71期)	同	高橋 浩生	(78期)
同	清水 正郎	(75期)	同	熊井戸浩一	(78期)
同	波瀲 憲昭	(81期)	同	藤田 実	(79期)
同	山本 忠順	(62期)	同	竹中 隆	(79期)
	(東京同窓会長)		同	花井 好機	(82期)
監査	松岡 光弘	(77期)	同	大田部 功	(85期)
同	小坂橋敬之	(81期)			

◆同窓会本部より、お知らせとお願い

1. 同窓会会員名簿発行のお知らせ
平成29年1月、既申込者に発送致します。見開き頁にはドローン撮影の校舎を掲載しました。
頒布価格は前回と変わらず4,300円(消費税込み)、サイズはA4となります。
事務局(027-320-6024)に申し込み頂ければ同価格にてお送り致します。
2. 指月庭のバラを年間維持管理する指月庭倶楽部員を募集しております
母校120周年事業として「バラの香匂う学舎」を目指し、140本の新品種バラを植えました。
現在8名にて活動。春～秋にかけて毎月第2・4日曜午前10時より草刈り、
芝刈りを行っています。時間の取れる方は道具持参にて参加して頂きたいと思ひます。
詳しくは同窓会事務局(027-320-6024)にお問い合わせください。
3. 若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等の役員未決定期に補助金
役員未決定、或いは同窓会未開催等で困っている期には初回案内通知にかかる費用(5万円前後)を同窓会にて支援致します。
対象の期は事務局(027-320-6024)にご連絡ください。
4. 「高崎高等学校同窓会」のホームページには多くの情報を掲載しております
同窓会ホームページには日々最新の情報を掲載しております。是非ご覧下さい。
部活動のHPや記念誌等も申出頂ければ同窓会にて費用負担し、掲載致します。
5. 企業の協賛会員も継続募集しております
ホームページでの企業PR及びリクルート活動に活かします。年間1万円、初回はプラス作成費1万円です。
事務局(027-320-6024)或いはホームページより申込頂けます。



指月庭完成予想図

指月庭倶楽部(仮称)の活動

母校創立120周年事業としてバラの香匂う学舎にすべく、ボランティア(現在8名)にて基本的に毎月第2・4日曜日午前10時頃より除草、芝刈りを行っています。会長の71期高橋成東氏は週2・3回も手入れにきています。しかも細かい草はピンセットで抜き取る神業も駆使しています。120周年時、翠巒祭には元気なバラを咲かせます。これからも継続しての活動になります。自由参加ですので是非とも参加頂きますようお願い申し上げます。(連絡先 同窓会事務局 027-320-6024)



左端 高橋会長

榛麓の集い ○日時:毎年11月第2土曜日17:30より ○会場:食亭「つかさ」

榛麓翠巒会は旧群馬町、箕郷町、榛東村、榛名町、倉渕という榛名山の麓を主体とする同窓会です。現在の会員数は約100名。発足の歴史は同窓会報第37号に当時の代表幹事友松稔氏が寄稿しております。30分の講演を聴講後懇親会にて先輩後輩共に大いに楽しんでおります。発足当時の会員が多く最近では会員数の減少に悩んでおります。是非とも近隣の同窓生の参加を期待しております。 連絡先 幹事 立見友孝(63期)090-1865-4383まで

榛麓翠巒会(会長58期 田中興一郎)



●平成28年(2016年)役員名簿

《東京同窓会役員》

【顧問】 浦野 清(43期) 常任幹事 石川正武(70期)
海保英夫(44期) 兵藤公彦(72期)
中村 清(46期) 井野直幸(74期)
神田創造(52期) 橋爪恒二郎(77期)
大木紀元(58期) 山内忠浩(78期)
三木芳樹(59期) 羽鳥光明(79期)
高木 賢(61期) 和田国明(79期)

【役員】

会長 山本忠順(62期)
副会長 水上勝之(62期)
〃 金井 勉(66期)
〃 御供謙一(68期)
翠鸞編集長兼任
〃 仙波憲一(68期)
幹事長 丸山俊弘(71期)
副幹事長 小池純司(72期)
事務局長 下村昇治(75期)
幹事 田中 誠(72期)
〃 中村健一(93期)

長井俊史(80期)
四方田勉(81期)
大沢貴頼(83期)
山口正仁(84期)
田端広英(87期)
翠鸞編集次長
新井隆康(94期)
亀井 剛(96期)
櫻澤正巳(100期)

《関西同窓会》

会長 黒岩保昌(49期)
事務方 糸田博史(68期)
会計幹事 清水英人(54期)

《群馬県庁 高朋会》

会長 宮崎一隆(74期)
副会長 澁谷喜久(75期)
幹事長 植杉 充(87期)
副幹事長 新井俊弘(87期)
主任幹事 上原篤士(89期)
〃 久保暁郎(94期)
〃 竹内哲郎(94期)
〃 小林俊之(96期)

《高崎市役所翠鸞会》

会長 北島 晃(75期)
副会長 佐藤 誠(76期)
〃 吉井 仁(79期)
会計 松本 伸(80期)
幹事 松田隆克(80期)
〃 富加津豊(80期)

《藤岡翠鸞会(藤岡市)》

会長 赤松茂光(67期)
副会長 小貫 諭(69期)
〃 秋山賢治(74期)
会計 福島直人(66期)
書記 関根正史(69期)

《榛麓翠鸞会》

(旧群馬町、箕郷町、榛名町、榛東村等)
会長 田中興一郎(58期)
幹事 立見友孝(63期)
〃 瀬山眞二(63期)

《すいらん獣医師会》

会長 中島英男(50期)
幹事長 高橋成東(71期)
《翠鸞税理士会》
会長 永井乙彦(69期)

同窓会だより

第115回 高中・高高同窓会新年総会・懇親会 皆様をこころよりお待ちしております。

86期代表幹事 産科婦人科舘出張佐藤病院院長 **佐藤 雄一**



この度、第115回同窓会新年総会の担当期を務めさせていただきます86期代表幹事の佐藤雄一です。数年前に高高の同級生に久しぶりに誘われ、飲みに行った席で、卒後30年目の同窓会担当幹事について相談されました。それまでは同窓会活動にあまり積極的ではなかったため、いま一つ実感が湧きませんでしたが、こうして準備を始めてみると、長きにわたる歴史と伝統を持った同窓会に改めて感動しております。折りしも平成29年は母校創立120周年にあたり、その記念となる年に同窓会総

会の幹事を務めさせていただけることに喜びを感じております。先日同期会で同級生が集まりました。まだ大勢ではありませんが、それぞれが高校時代の思い出を胸に、驚くほど協力的に同窓会総会の盛会を誓いました。

バラの香匂う学び舎にて過ごした仲間たちと、また一緒に何かできる機会を与えていただけたことに感謝し、同級生一同心を込めて皆様をお出迎えしたいと思います。多数の方のご参加お待ちしております。よろしくお願いいたします。

第115回 高中・高高同窓会新年総会のご案内

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方、後輩諸氏多くの同窓の皆様方をお迎えし、総会では本会および母校の状況をご確認いただき、懇親会では在学当時を思い起こして共に楽しいひとときをお過ごしいただける様、準備を進めております。

同級生、先輩後輩皆様お誘いの上、一人でも多くの同窓の皆様がご参加下さいます事、当番幹事一同心よりお待ち申し上げます。

【日時】平成29年1月28日(土)午後3時より 【会場】高崎ビューホテル(高崎市柳川町70 電話:027-322-1360)

【会費】お一人様 5,000円(当番幹事 86期代表 佐藤雄一)

創立記念講演会

元内閣官房副長官 上野 公成氏(57期)

テーマ 官房からみた群馬・日本・世界



豊かな経験を語る上野氏

平成28年6月17日(金)本校の創立記念行事として、本校OBで元内閣官房副長官の上野公成氏(57期)による講演会「官房からみた群馬・日本・世界」が行われた。官房長官の仕事や役割を、「内閣」という行政組織の中で活躍された経験を通してわかりやすく高高生に語られた。普段の生活ではあまり気につけない行政の役目や重要性を改めて考えさせられるとともに政治に対する興味を喚起させる講演会となった。



感謝の気持ちを込めた応援部のエール



真剣に聴く高高生

講演会

テーマ

夢をかなえる

(株)山岸製作所専務取締役 79期 山岸 祐二氏

平成28年11月14日(月)本校1学年の社会人講師授業会として、本校OBで(株)山岸製作所専務取締役の山岸祐二氏(79期)による講演会「夢をかなえる」が行われた。

会社や社会で求められている人材とは、「挨拶ができる人、何事も全力で取り組む人」であり、必ず「未来を開く人になる」という情熱のあふれる講演は、入学して半年の1年生の今後の高高生活の指針となったはずである。勉強も部活も全力でやり通す「文武両道」の精神は今現在のためだけでなく、充実した将来への基盤作りとなるという確信を感じることができた講演会となった。



テーマ

税の教室

税理士 78期 高橋 浩生氏

平成28年12月6日(火)、2年8組の生徒を対象にした租税教室が、HS講座の一環として行われ、本校OBで税理士の高橋浩生氏(78期)が講師を務めた。

税の仕組みや負担のあり方の説明に続いて、高橋氏から「税金が足りない。未来の君たちはどうする?」という課題が出され、生徒は8班に分かれて活発な議論を行った。不安定な労働環境、就労者人口減少など現代社会が抱える問題を考慮しながら、「政策」をまとめていく中で、「大都市の消費税を上げれば地方の人口が増えて良い。」「国レベルのふるさと納税を行い、海外からも集める。」など多くのユニークな意見が発表された。生徒にとって「税」という普段はあまり考えない視点から社会を論じる貴重な体験となった。



【HS(ヒューマンサイエンス)とは、高高独自の取り組みで、社会科学および人文科学を学び、将来国際社会の一員として様々な分野で主体的に活躍する人材育成のためのプログラムである。主に2年次で編成された1クラスの生徒を対象にしており、アメリカ研修、英語活用能力養成、体験学習などを行っている。】

第23回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)

《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	81期	320
準優勝	69期	326
3位	82期	329

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	81期	331	42.0	289.0
準優勝	71期	358	68.4	289.6
3位	80期	348	56.4	291.6

●個人戦 《ベストグロス賞》

順位	氏名	期	GROSS
赤城・榛名	渡辺 俊裕	81期	76
榛名・妙義	長井 啓行	62期	79
妙義・赤城	小野里篤夫	66期	75

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	櫻沢 勉	71期	81	12.0	69.0
準優勝	小野里篤夫	66期	75	4.8	70.2
3位	稲田智秀剛	80期	84	13.2	70.8



団体戦優勝81期



下村前大臣の挨拶



優勝 櫻沢勉さん71期

当日は天候にも恵まれ、皆様方のご協力により無事大会を開くことができました。心より感謝申し上げます。
79期ゴルフ代表幹事 遠山 昇

第18回 前橋高校・高崎高校OBゴルフ定期戦結果

先日11月23日第18回 前橋高校・高崎高校OBゴルフ定期戦が富岡ゴルフ倶楽部にて開催され、上位10名グロス合計で高崎高校が810対815にて勝利しました。これで成績は高崎高校12勝、前橋高校6勝となりました。
戦績：高崎高校810対前橋高校815(上位10名グロス合計)戦績高崎高校12勝、前橋高校6勝

日時会場：平成28年11月23日(固定)、富岡ゴルフ倶楽部にて。

参加者を募集しております。 幹事66期 小野里 篤雄 ※次年度は赤城国際CC予定



平成28年度高崎高校人事異動

《退任者・転出者》

副校長 森泉 孝行 高経附高(校長昇任)
国語 島田 学 富岡高
国語 坂爪 誠 県教育センター(長研)
数学 仲谷 佳郎 前橋高
数学 佐藤 幸弘 太田工高(教頭昇任)
英語 津久井俊明 渋川高
家庭 河田奈緒美 前橋西高
事務 福室 秀和 渋川高

《新任者》

副校長 梅澤 英明 (昇任)
教頭 丸山 正 長野原高
国語 大隅 昭彦 伊勢崎高
国語 皿山 倫義 富岡高
数学 國富 充敏 桐生西高
数学 須藤 毅 高崎北高
英語 森戸 麻子 前橋女高
家庭 岡田 典子 勢多農高
理科(地公臨) 山寺 玲子 (高崎高理科助手)
事務 西潟 諒人 (新採用)

通信制

《退任者・転出者》

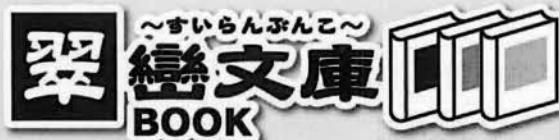
地歴 江原 邦博 退職
理科 鈴木 政勝 西邑楽高

《新任者》

地歴 富田 一仁 高崎女高
理科 西山 幸伸 富岡東高

平成二十八年 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

瑞宝双光章	金井 和一(50期)	文部科学大臣表彰	渡辺喬三郎(51期)
瑞宝双光章	間仁田恭一(54期)	文部科学大臣表彰	山口 保男(57期)
瑞宝双光章	原田 勉(62期)	文部科学大臣表彰	佐鳥利一郎(61期)
瑞宝双光章	小出 海順(定17期)	厚生労働大臣表彰	立見 壽士(56期)
旭日双光章	小池 脩夫(57期)	国土交通大臣表彰	竹内 功(57期)
旭日双光章	荻原 康二(63期)	国土交通大臣表彰	阿久澤 茂(69期)
藍綬褒章	佐野 輝男(定15期)		
瑞宝重光章	舩岡富士雄(61期)		



●著書／作者

- 前橋陸軍士官学校と戦時下に生きた青少年の体験記 鈴木 越夫(62期)
- 辰巳の空 友松 稔(49期)
- 我慢ごろ 小林 眞吾(56期)
- ヒット商品のマーケティング 早稲田大学商学部 黒澤 英人(71期)
- 戦いなければ哲学なし 中島政希回想録 中島 政希(71期) 関口 秀紀(72期)編 津川 悟編
- 菅原道真の古代日本論
独白する日本書紀と万葉集の虚構 武井 敏男(66期)
- 日仏夢の懸け橋 日本シャンソン館 大木 紀元(58期)
- ブルーノ・タウトと高崎 大木 紀元(58期)

◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成27年10月1日～平成28年9月30日〉

翠巒育英会より

PR

平素翠巒育英会にご指導、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。会の運営は財団の基金を礎に、叙勲・褒章者及び篤志者よりの特別寄付金、会員の一般寄付金(コンビニ振込)合計260万円余の収入で賄っております。

28年度の奨学金受給者は15名です。尚6月13日の評議員会、理事会で下記の新役員が就任されました。

理事長	串田 紀之(67期)	同窓会会長	評議員	西巻 忠彦(57期)
副理事長	阿久澤 茂(69期)	同窓会副会長	〃	立見 友孝(63期)
〃	坂本 正樹(71期)	〃	〃	羽鳥 修司(63期)
常務理事	中村 康晴(73期)	〃 本部幹事	〃	廣田誠四郎(64期)
理事	横田 貞一(65期)		〃	小林 優公(66期)
〃	佐藤 修(70期)		〃	仙田 健一(67期)
〃	島田 雅典(75期)		〃	杉浦 芳郎(70期)
〃	根岸 赴夫(76期)		〃	内山 充(71期)
〃	若山 享(58期)		〃	糸井 丈之(72期)
幹事	松岡 光弘(77期)		〃	秋山 賢治(74期)
〃	高橋 浩生(78期)		〃	國峯 賢一(74期)
顧問	田端 稯(54期)	前理事長	〃	清水 正郎(75期)
〃	佐藤 和徳(57期)	前同窓会長	〃	橋爪 良真(75期)
〃	佐藤 功	学校長	〃	須郷 弘(76期)
			〃	熊井戸浩一(78期)
			〃	竹中 隆(79期)
			〃	花井 好機(82期)
			〃	大田部 巧(85期)



平成27年度「公益税団法人 翠巒育英会」決算書 (単位:円)

■収入	
正味財産(基金)運用益	12,147
寄付金	2,608,589
雑収入	397
合計	2,621,133
■支出	
事業費	
奨学金	
学校教育補助	1,800,000
教育環境整備補助	175,000
手数料	270,000
通信運搬費	88,274
消耗品費	86,118
支払手数料	192,157
雑費	28,264
管理費	
通信運搬費	0
消耗品費	575
支払手数料	1,100
雑費	12,203
合計	2,653,691
2,621,133 - 2,653,691 = △32,558 (正味財産より減額)	
■正味財産(基金)	
*当期首残高	51,839,044
*当期増減高	△32,558
*当期末残高	51,806,486

(注)上記決算書は財団法人の決算書の様式とは異なりますが、皆様にわかりやすくするため、一般的な収支報告書の様式にまとめたものです。

高高同窓会 予算決算報告

平成27年度 通常会計決算

(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

平成28年度 通常会計予算

(平成28年1月1日～平成28年12月31日)

収入の部

費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
前年度からの繰越金	374,843	374,843	0	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,277,600	109,600	全日制324名 (@9900) 通信制35名 (@2000)
維持会費	8,000,000	8,323,000	323,000	3094名
利 息	957	1,017	60	
雑 収 入	300,000	277,000	△ 23,000	Webサイト協賛金・記念品収入
合 計	11,843,800	12,253,460	409,660	

収入の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 減	備 考
前年度からの繰越金	438,383	374,843	63,540	前年度から繰越金
入 会 金	3,168,000	3,168,000	0	全日制入学生320名 (@9900)
維持会費	8,000,000	8,000,000	0	
利 息	1,017	957	60	
雑 収 入	300,000	300,000	0	Webサイト協賛金・記念品収入
合 計	11,907,400	11,843,800	63,600	

支出の部

費 目	予算額	決算額	残 額	備 考
会 議 費	950,000	916,629	33,371	新年総会準備ほか
祝 賀 費	900,000	1,048,320	△ 148,320	叙勲記念品・卒業記念品ほか
饗 別 費	200,000	150,000	50,000	平成26年度末離任職員饗別
慶 弔 費	100,000	49,580	50,420	
通信印刷費	480,000	534,229	△ 54,229	維持会費督促状・納入礼状・ 翠樹会館電話代ほか
旅 費	120,000	110,000	10,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,850,000	3,890,532	△ 40,532	同窓会報発行費および発送費
事 務 費	1,400,000	1,288,631	111,369	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	56,306	43,694	賞状・記念品ほか
資料整理費	1,200,000	325,728	874,272	Webサイト管理費ほか
補 助 費	1,600,000	1,645,637	△ 45,637	翠樹体育会・生徒活動補助
環境整備費	226,800	226,800	0	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑 費	400,000	572,685	△ 172,685	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	1,000,000	△ 1,000,000	
予 備 費	317,000	0	317,000	
合 計	11,843,800	11,815,077	28,723	

支出の部

費 目	今年度予算	前年度予算	増 減	備 考
会 議 費	950,000	950,000	0	新年総会準備ほか
祝 賀 費	1,000,000	900,000	100,000	叙勲記念品・卒業記念品ほか
饗 別 費	200,000	200,000	0	平成27年度末離任職員饗別
慶 弔 費	100,000	100,000	0	
通信印刷費	540,000	480,000	60,000	維持会費督促状・納入礼状・ 翠樹会館電話代ほか
旅 費	120,000	120,000	0	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,850,000	100,000	同窓会報発行費および発送費
事 務 費	1,400,000	1,400,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
資料整理費	600,000	1,200,000	△ 600,000	Webサイト管理費ほか
補 助 費	1,600,000	1,600,000	0	翠樹体育会・生徒活動補助
環境整備費	300,000	226,800	73,200	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑 費	600,000	400,000	200,000	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	0	0	
予 備 費	447,400	317,000	130,400	
合 計	11,907,400	11,843,800	63,600	

収入総額(円) - 支出総額(円) = 差引繰越残額(円)
12,253,460 - 11,815,077 = 438,383

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	12,757,162円
	平成27年度通常会計より	1,000,000円
	利 息	2,546円
	合 計	13,759,708円

支出の部 0円

当年度差引残額 13,759,708円

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	13,759,708円
	平成28年度通常会計より	0円
	120周年記念事業寄付金	1,000,000円
	利 息	2,546円
	合 計	14,762,254円

支出の部 120周年記念事業(指月庭工事) 1,000,000円



平成29年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします。)



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人: 串田 紀之

編集委員: 田端 穰(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)
若山 享(58期) 立見友孝(63期) 熊野卓司(66期)
新井重雄(78期) 關根秀仁(82期)

編集
後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第50号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、まことにありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)～6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024